

病院の 実力

～福島編 117

病院の実力「めまい」
医療機関別2016年治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	めまい相談医 (〇=3名)		
	患者(人)	うち 良性発作性 頭位めまい症	うち メニエール病
福島			
太田西ノ内	644	214	59
県立医大・会津医療セ	190	61	89
いわき市立総合警域共立	101	34	19
大町	89	33	18
宮城			
石巻赤十字	447	4	15
仙塩利府	416	117	126
東北医科薬科大	344	41	37
仙台市立	66	20	20
栃木			
独協医大	900	103	35
金子耳鼻咽喉科ク	801	55	105
とちぎメディカルセしもつが	480	38	18
国際医療福祉社大	362	102	13
添田耳鼻咽喉科医院	316	122	44
新小山市民	313	34	28
済生会宇都宮	300	200	30
足利赤十字	180	105	59
国際医療福祉大塩谷	125	26	15

「セ」はセンター、「ク」はクリニック

全国の調査結果は「暮らし健康面」に掲載しています。次回は12月3日「糖尿病」の予定です。

今回の病院の実力は「めまい」を取り上げる。ストレスの影響を受けやすく、身近な症状の一つ。原因は耳にある場合が多く、内耳の三半規管や耳石器など、バランスをつかさどる器官の障害で起きやすい。

一覧表ではまず、めまい相談医がいるかどうかを示し

めまい

メニエール病は、内耳を満たすリンパの代謝バランスが

良性発作性頭位めまい症の患者の3分の2は女性が占め



県立医大・会津医療センター
耳鼻咽喉科学講座 小川洋 教授

適度な運動や睡眠 大事

がしたりする患者は特に注意が必要。当センターは脳神経外科を設けておらず神経内科は非常勤であるため、脳血管障害を確実に見極めて他の病院へ送る。特に70歳以上は小さな脳梗塞がある患者も多いので気が抜けない。

診断では磁気共鳴画像(MRI)による検査が重要になる。緊急時でもMRIをとれる医療機関は多くないが、確実な診断には欠かせない。加えて問診で病状を確実に把握しなければならぬ。

さらに患者に眼球の動きを調べる装置を着けてより詳しく診断する。この装置を使うと医師が患者の目の動きを確認できる。赤外線カメラを搭載し録画機能のある高性能な装置では、眼球の動きを記録でき、確実な診断を下すに便利だ。

良性発作性頭位めまい症の治療には、頭を動かす理学療法やめまいを抑える薬が使われる。医師の指示に従って頭を動かして、ずれた耳石を元に戻す。自宅で教えられたように頭を動かして治療を進めることもある。メニエール病では複数の薬を組み合わせて内耳のバランスを正常に戻していく。

めまいの発症メカニズムはまだ解明されていないが、ストレスや寝不足、肩こりなどが誘因になるとみられている。適度な運動や十分な睡眠など、基本的な生活習慣を心がけたい。気になる症状があれば、早めに耳鼻科を受診して相談したほうがいい。

脳梗塞の可能性 受診を

た。日本めまい平衡医学学会、高度な診療技術や専門的な知識を持つ医師に対して認定しており、受診する時の目安になる。

良性発作性頭位めまい症は、めまいの患者の中で最も多い。内耳で重力や傾きを感じ取る耳石がずれ、三半規管に入り込むのが原因。元に戻すよう頭を動かして治療する。

崩れ内耳がもたらす起きる。高度な診療技術や専門的な知識を持つ医師に対して認定しており、受診する時の目安になる。

利尿剤を使って治療し、治りにくい場合、リンパが吸収される。

れる内リンパ嚢を開放し、流れをよくする手術を行うこともある。

診断の際には、脳血管障害の可能性について注意する。体にしびれがあったり、頭痛

ほかに、三半規管につながる神経周辺の炎症により起こる前庭神経炎がある。神経や内耳にダメージが生じ、数日間めまいが続くこともある。体のバランスを補正しようとする脳の動きを助けるリハビリが必要。専門のリハビリプログラムを行う病院もある。

めまいは生活にも影響するだけでなく、脳梗塞など命にかかわる疾患が隠れている可能性もある。簡単な病気で考えず、早期の受診が大事だ。